

2019年11月17日

福音書からのメッセージ

しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決して
なくならない。

(ルカによる福音書 21 章 18 節)

教会の暦では、降臨節第一主日から一年がスタートします。2019年の降臨節第一主日は12月1日(日)ですから、11月30日が教会では一年の終わりということになります。お正月と大みそかのことを少し考えてみましょう。多くの方は大晦日が来る前に、年越しの準備をしたいと思います。大掃除をしたり、かがみ餅を飾ったり。そして大みそかには紅白歌合戦でも見ながら、新しい年の訪れを待つことでしょう。

それは、新しい年が必ず来るという確信があるからだと思います。日が暮れて夜になったとしても、朝が必ず訪れることを知っているから、暗い中でも怖がらずに、わたしたちは休息のときを持つことができるのではないのでしょうか。

しかし今週の福音書を読んだときに、大みそかのワクワクはなかなか感じられないと思います。それはとても恐ろしい言葉が並んでいるからです。

「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。」

「あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。」

これらの言葉を聞かされたときに、わたしたちの心の中には絶望しか生まれないのかもしれないかもしれません。しかしこの言葉をイエス様は、わたしたちをただ怖がらせるためだけに語られたのでしょうか。

わたしたちが生きているこの世界には、楽しいことも、うれしいこともあるでしょ



う。しかしそれと同じくらい、いやそれ以上に、辛いこと、悲しいこと、苦しいことがあります。まさ

に暗闇の中に叩き落とされるような状況に陥ることさえ、わたしたちの日常の中にはあるのです。

イエス様は、この言葉を十字架につけられる直前に語られました。イエス様の十字架の死、それはまさにイエス様に従う人々にとって、悲しみであり、嘆きであり、絶望でした。しかしそれで終わりませんでした。イエス様は、復活されます。それは従う人々のためのみならず、すべての人々のためでした。たとえ今、悲しみのどん底にあったとしても、イエス様はわたしたちのために来て下さる。それがイエス様の約束なのです。

どんなに辛い毎日でも、明日のことがまったく見えないそんな日々でも、必ず新しい朝が来る。復活のイエス様が手を差し伸べてくださる。そのことを信じてほしい。それがイエス様の思いなのではないのでしょうか。

「あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。」

この約束の言葉を信じ、新しい朝を待ちわびたいと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>